

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 ウイメンズヘルス看護学分野	修了年度	2019 年度
氏名	濱寄 信恵	指導教員 (主査)	及川裕子教授

論文題目	不妊治療を終結した夫婦の体験
------	-----------------------

本文概要

【目的】 不妊治療開始から治療終結までのプロセスの中の夫婦の体験を明らかにすることである。

【方法】 挙児を得ず不妊治療の終結に至り、精神的に落ち着いて振り返ることができる夫婦3組に不妊治療開始から終結するまでの間にどのような出来事があり、その時の思いや考えを自由に語ってもらった。夫婦別の面接によって得られた逐語録から体験に関する語りを抽出し、意味内容の類似性からカテゴリ化し質的帰納的に分析した。

【結果】 データ分析の結果、研究参加者が挙児を得ず不妊治療を終結した体験に関するコードは妻が146、夫が115、サブカテゴリは妻が25、夫が22、カテゴリは妻が【ライフコースとして考えていた子どもがいる生活】【不妊治療に対する楽観的認識】【不妊治療の周期に生活が支配される負担・辛さ】【相手を思いやりつつも治療による苛立ちからくる夫婦関係の悪化】【不妊治療をしても成果が得られないことによる女性性の喪失】【治療しても妊娠出来なかった自分の価値の見直し】【経済的・身体的・精神的限界から感じた不妊治療終結の潮時】【挙児を得られなかったことによる喪失と自己受容】【不妊治療後の人生の再構築】の9カテゴリ、夫は【妻の気持ちが妊娠に向くまで待った不妊治療の開始】【不妊治療に対する楽観的認識】【不妊治療の周期に生活が支配される負担・辛さ】【挙児よりも最優先した妻の心身の健康】【治療終結のタイミングの見極め】【経済的・身体的・精神的限界から感じた不妊治療終結の潮時】【挙児を得られなかったことによる喪失と自己受容】【夫婦の関係性の再構築】の8カテゴリに生成された。そのうち夫婦共通のカテゴリは【不妊治療に対する楽観的認識】【不妊治療の周期に生活が支配される負担・辛さ】【経済的・身体的・精神的限界から感じた不妊治療終結の潮時】【挙児を得られなかったことによる喪失と自己受容】の4カテゴリであった。

【考察】 不妊治療を終結した夫婦の体験は、お互いが質の違う不妊治療による負担・辛さを感じ、個々の生活、性生活が自分達の意志とは関係なく治療によって侵襲されていくことで追い込まれていくことが明らかになった。また、夫は疲弊していく妻にどう接していいのかわからず、夫婦間のコミュニケーションが希薄になっていた。夫婦は治療によって夫婦関係が悪化していると感じていても、同じ時間を共に過ごしていたからこそ妻が暗黙に発しているメッセージを夫が受け取るという相互作用が働くことで終結のタイミングを見極めており、お互いの気持ちが合致したことで次のステップに進んでいくことができていたと考えられた。治療の終結を決断した後も、夫婦は子どもを諦めなくてはいけない気持ち諦めきれない気持ちと葛藤しながら人生を見直していたが、妻は治療によって自らの女性性を否定されたことから自分の価値を見直し、治療を乗り越えたという自負から不妊治療の体験を人生の大きな出来事と位置づけ学びとしていた。一方夫は不妊治療の体験を人生の中の一つの出来事と捉えており、夫婦の認識にも違いがでた。女性は自身の身をもって治療を体験するが、男性は自ら体験することがない当事者性の低さなのかもしれないと考えられた。

【キーワード】 不妊治療のプロセス 治療終結 夫婦の体験